

01 経営戦略の策定について

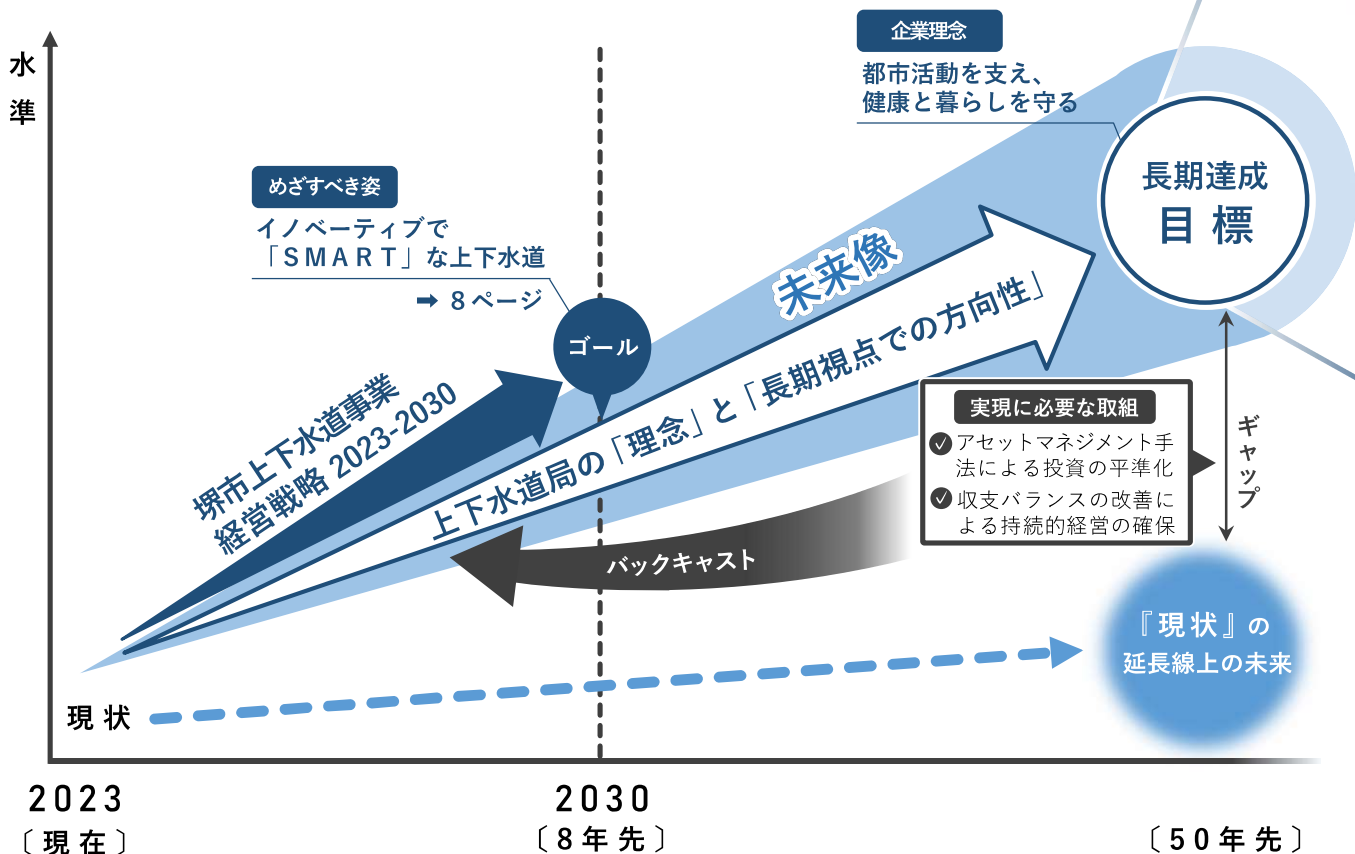
策定の趣旨

本市では、これまで「堺市上下水道ビジョン」（2016年度～）に基づき、計画的に事業を推進してきました。上下水道ビジョンでは、水需要の減少や施設の老朽化、地震や大雨などの大規模災害への対策を進めながら、人材の確保や育成による技術水準の維持や料金・使用料の適正化に取り組んできました。

しかしこの間にも、自然災害の激甚化・頻発化や脱炭素社会への移行の加速化、多様な働き方を選択できる社会の実現など、新たな社会課題への対応が求められるようになりました。また、DXの進展や物価高騰、感染症対策と事業の両立など、急速な社会環境の変化への対応も必要となりました。

これらの課題を解消し、次世代に健全な上下水道事業を確実に引き継ぐために50年間の長期の投資と財源のあり方を検討し、持続的経営の実現に向けた長期視点での方向性と長期達成目標を「未来像」として定め、これを基に、新たな課題の解消に向けた2030年度までの具体的取組と目標値を「堺市上下水道事業経営戦略2023-2030」として取りまとめました。

〔経営戦略の位置付け〕



長期達成目標

施設整備
(投資)

老朽化への対応

水道

老朽化した水道施設が更新され、大規模な断水が無く、水道水の安定供給ができています。

下水道

老朽化した下水道施設が減少し、適切な管理のもと、下水処理機能が確保できています。



浸水への対応

下水道

気候変動に対応し、浸水被害が最小限に抑えられている。



地震への対応

水道

指定避難所などの重要給水施設（現在196か所）までの管路が耐震化され、給水機能が確保できている。

また、復旧に期間を要する基幹管路などの被害があっても配水施設のバックアップ機能により、水の供給を早期に再開することができている。

下水道

避難所の下流などの重要な管きよが耐震化され、下水流下機能が確保できている。また、水再生センター間を接続することにより、下水処理機能が確保できている。



施設統廃合

水道

人口減少に応じて、配水施設の規模や能力が最適化されている。

（岩室配水場、桃山台配水場、小平尾配水場、さつき野配水池の廃止）

下水道

人口減少や気候変動を踏まえ、下水道施設を統廃合することで、施設規模や能力が最適化されている。

（古川（第1施設）、豎川、湊石津、戒橋下水ポンプ場の廃止、石津水再生センターのダウンサイジング）

財政



世代間負担の公平性の確保

適正な料金水準や企業債借入水準の設定により上下水道事業の持続的経営が実現できている。

（総括原価方式に基づく適正な料金回収率により、純損益と資金収支の黒字が確保され、投資と財源のバランスが保たれている）



利用者等に対する経営の透明性確保

上下水道事業の経営状況や事業目的、具体的な取組内容などを分かりやすい形で、広く発信できている。また、利用者の声を施策に反映させることで、利用者との信頼関係が構築され、経営の透明性が確保できている。

50年先の未来でも、安全な水を通して、「都市活動を支え、健康と暮らしを守る」ことができている

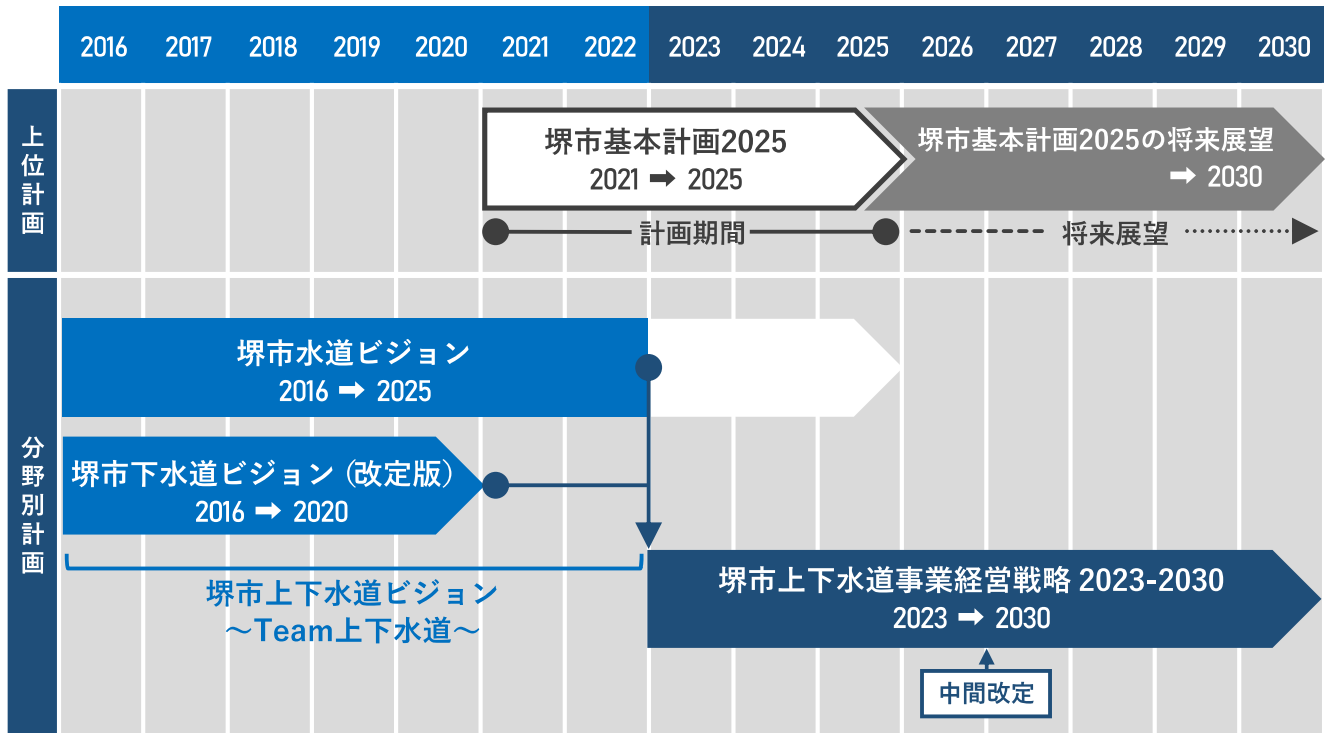
経営戦略の位置付け

本計画は、上位計画である「堺市基本計画2025」の分野別計画として位置付けています。堺市都市計画マスタープランなどの計画と連携して、上位計画の達成をめざします。また本計画は、総務省の「経営戦略」策定の要請や、厚生労働省の「新水道ビジョン」、国土交通省の「新下水道ビジョン」の方向性を踏まえた計画としています。



経営戦略の計画期間

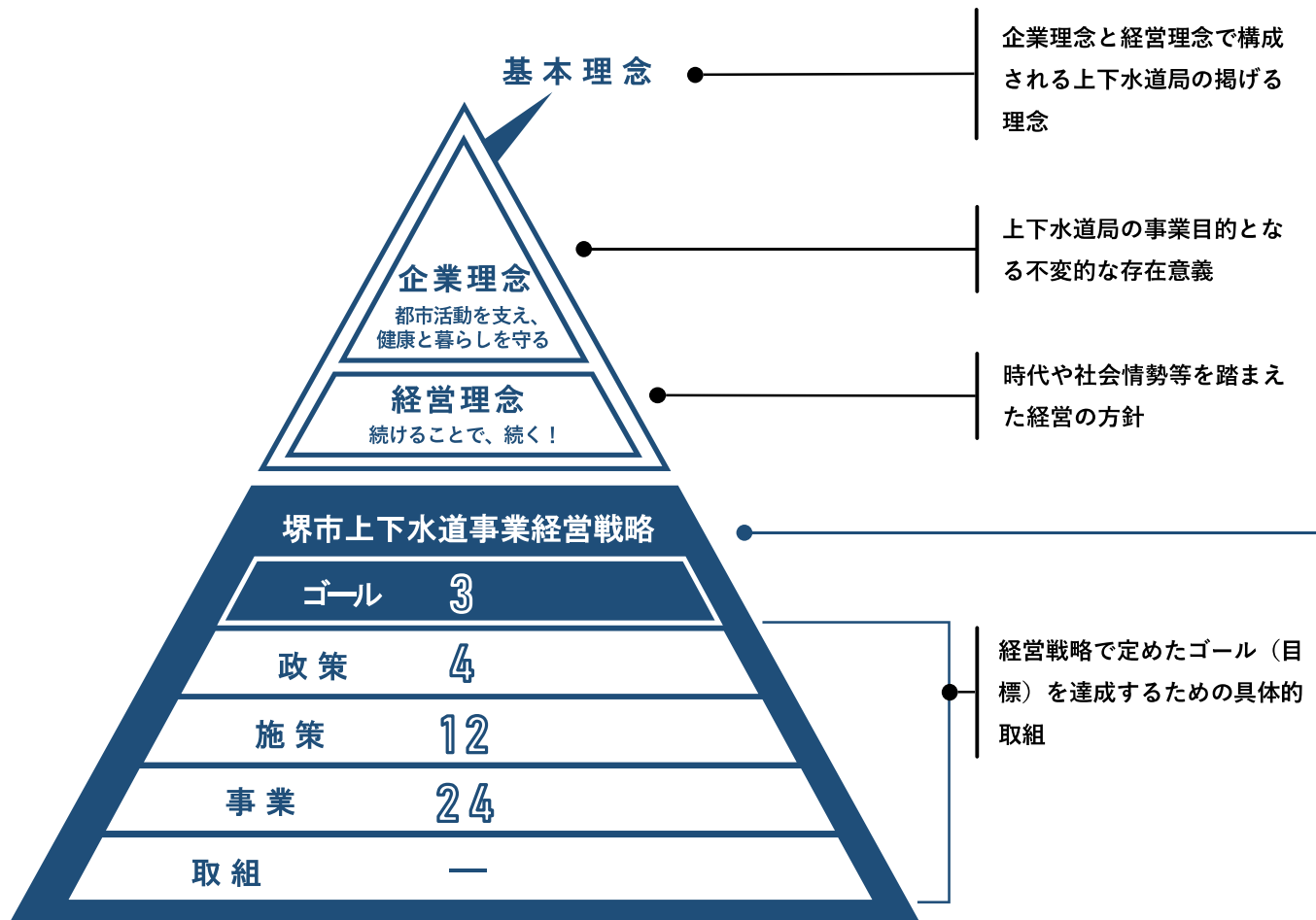
計画期間は、2023年度（令和5年度）から2030年度（令和12年度）までの8年間とします。また、中間年度（2026年度）に、計画の中間改定を行います（詳しくは、63ページ）。



本計画の計画期間は、上位計画の「堺市基本計画2025」が2030年度を見据えていることを踏まえて、2030年度（令和12年度）までの8年間とします。

計画の構造

今後8年間の上下水道事業の「めざすべき姿」を定めました。また、ゴールに向けた「政策」、「施策」、「事業」及び「取組」を定めました。



堺市上下水道事業経営戦略2023-2030

めざすべき姿

イノベーティブで「SMART」な上下水道

- 変化に柔軟で、最適な上下水道システム -

3つのゴール

めざすべき姿を具体化するため、3つのゴールを定め、その達成度を評価するためのKGI（Key Goal Indicator：重要目標達成指標）を設定しました。

安全・安心 の戦略

ゴール

上下水道施設の適切な
資産管理

KGI 老朽管または劣化管への
対応

- ✓ 水道の老朽管※1 → 現状の0%を維持
- ✓ 下水道の劣化管※2 → すべて適切に措置されている

上下水道に求められる市民の生活環境や公衆衛生を確保し、安全・安心につなげます。

そのためには、今後、老朽化が進む上下水道施設を適切に管理する必要があるため、ゴールを「上下水道施設の適切な資産管理」とし、KGIを「老朽管または劣化管への対応」としました。

安全・安心のKGIに関する注釈

- ※1 水道の老朽管 … 目標耐用年数を超過した管路（状態監視できる管路等を除く）
- ※2 下水道の劣化管 … 調査により、クラックや破損等の損傷度合いから対策が必要と判断される管きょ（下水道維持管理指針に基づく3段階の緊急度評価のうち、緊急度Ⅰ・Ⅱに該当する管きょ）を指す。また、適切な措置とは、調査データの管理から改築・修繕工事実施までの一連の取組を指す。

安定・持続 の戦略

ゴール

持続可能な経営

KGI 計画期間内の累積利益及び
累積資金

- ✓ 累積利益 → 黒字の確保
- ✓ 累積資金 → 黒字の確保

収支バランスを保つことで、経営基盤を強化し、将来に渡る経営の安定性を確保します。

そのためには、利益と資金収支の黒字を保つ必要があるため、ゴールを「持続可能な経営」とし、KGIを「計画期間内の累積利益及び累積資金」としました。

信頼・サービス の戦略

ゴール

事業に対する
理解度・利便性向上

KGI 利用者からの問合せ

- ✓ コールセンターへの問合せ件数 → 2割以上減少（2021年度比）
- 102,977件 → 82,000件以下
(2021年度) (2030年度)

上下水道施設の耐震化や浸水対策等の事業の計画的な推進をはじめ、多様なニーズを踏まえた広報・広聴活動を通じて、利用者との信頼関係を構築します。また、キャッシュレス決済をはじめ、各種手続きの電子化拡充等の環境整備による利用者サービスの向上を推進します。

これらの取組により、利用者からの問合せに24時間365日対応しているコールセンターへの問合せ件数の減少につながるため、ゴールを「事業に対する理解度・利便性向上」とし、KGIを「利用者からの問合せ」としました。